

# 気づきの向こう側

令和8年2月2日（月）

自問清掃通信 第7号

## 3A

自分が1年生のとき、何をどのように掃除したらよいのか分からず、とりあえず床を中心に雑巾で磨いていました。床には必ずゴミが落ちていて、ただ床を磨くだけで終わるのではなく、落ちているゴミにどれだけ気付くことができるかを大切にして掃除をしていました。2年生になると清掃場所が廊下になり、広いうえに毎日汚れていたため、途方に暮れたことを覚えています。このときの自問清掃の時間が、いちばん長く感じられました。そこで、この15分を「短い!」と思えるように、どこにゴミやほこりがたまっているか、ゴミを取りこぼしていないか、汚れているところはないかを考え、掃除に没頭するようにしました。私は、自問清掃を自分たちで工夫し、楽しみながら掃除に取り組んでほしいということを伝えたいです。

私は1年生の頃、黙って清掃していればいいやと考えていました。しかし、何回も継掃会を行っていくうちに、先輩がほかのことも考えながら清掃していることが分かり、自分も先輩のようにならなければと思うようになりました。そして学年が上がり、自分ももっと3つの玉を意識して磨こうと思えるようになりました。今、3年生として清掃の大切さや清掃をする理由が分かってきて、本当にどんなことにもつながると思いました。これからの清掃で、1日1日少しでもレベルアップしていけば、学校がきれいになるだけでなく、自分の心も磨かれていくと思います。

## 3B

自問清掃を始めたばかりの頃、私はこの伝統を行う意味がよく分かりませんでした。「たかが清掃だろう、たかが15分だろう」と考えていました。しかし、1ヶ月、1年、2年と日を重ねるごとに、その考えは変わっていききました。先輩や後輩、クラスメイトが清掃をする姿を見て、その集中力に驚きました。黙々と汚れと向き合う人、誰も見つけられない汚れを探す人など、多くの人たちが15分に全力を尽くしていました。その光景と当時の自分を比べると、今でも恥ずかしく思います。清掃に意味なんてないと勝手に決めつけていましたが、周りの人は自分からその「意味」を探していました。粘り強さ、集中力、発見する力など、自問清掃を通して得るものは人それぞれ違います。これからの自問清掃の15分を、意味のある時間にしてほしいと私は思います。

私はこの3年間で、3つの玉がなぜこんなにも重宝されているのかを考えてきました。目には見えず、実感も湧きにくい。ましてや、弥北の伝統と言われても、いったい何なのだろうかと思っていました。しかし、毎日の15分間の積み重ねを経て、「中学生としての心の成長」とはまた違う心の成長を、あるとき感じることができました。何のためにしているのだろうと考えることもありますが、毎日コツコツ努力することは、どのような場面でも、たとえ実感がなくても必ず役に立ちます。そのことを、後輩のみなさんに伝えたいです。

### 3 C

自問清掃は、面白くなくてつまらないものだと思うでしょう。僕は１・２年生の頃、何のためにやっているのか分からず、静かに清掃すればいいと考えて自問清掃を行っていました。ですが最近、僕は自問清掃の時間は無駄ではないと感じるようになりました。僕たちは受験に臨みます。そのために勉強をしなければなりません。ただ一つ言えることは、１５分間の自問清掃を真面目にできない人が、勉強を真面目にできるはずがないということです。この先の人生のために、真剣に取り組む力を自問清掃で身に付けてください。

私はこれまで、自問清掃の時間を少し面倒に感じてしまい、あまり好きではありませんでした。しかし現在は、毎日の１５分間を大切に、集中して取り組むことができます。気持ちを切り替えられた理由は、「積み重ね」の大切さに気付いたからです。１日わずか１５分でも、１週間になれば７５分という大きな時間になります。その重みに気付いてからは、自分自身と向き合い、真剣に清掃に励むようになりました。１・２年生のみなさんも、日々の１５分を大切に積み重ねて、自分自身を成長させていってください。

### 3 D

私は「根気玉・親切玉・発見玉を磨く」という言葉を聞いて、水晶玉を連想しました。「心の中にあるのはダイヤの原石」とよく言われますが、私のように水晶を思い浮かべた人もいないのでしょうか。「水晶」という名前は宝石としての呼び名で、鉱物としての名前は「石英」です。石英は、校庭でも見つかるような身近で小さな石です。

私は自問清掃を通して、校庭で拾えるような石でも、日々の積み重ねによって大きくなり、きれいに磨けば、価値のある立派な水晶になるのだと学びました。毎日の１５分間でコツコツと、そして真剣に清掃に取り組めば、いつかその努力は必ず価値のあるものになるはずです。だからこそ、１・２年生のみなさんには、弥北の自問清掃という伝統をこれからもつないでいてほしいと思います。

私自身、掃除をしたくないと思ったことが何度もありました。しかし、ある日の自問放送で「１日の中で１５分も集中できないのであれば、他の物事にも集中して取り組むことは難しい」という言葉を聞き、その考えは大きく変わりました。そのとき、「すぐくもったいないことをしてきた」と、これまで清掃に本気で取り組めなかった自分に対して強い後悔を感じました。そして受験生となった今、勉強をさぼってきたことも、清掃で気を緩めていたことも、すべて自分に返ってきていると感じています。自問清掃は、自分自身と向き合い、粘り強く取り組むことで集中力を高めることにつながります。継続できなければ、「たった１５分」の気の緩みが未来の自分を苦しめることになります。私は、１・２年生のみなさんに同じ後悔をしてほしくありません。ぜひ、１５分間を制することのできる人になってください。そして集中力を身に付け、部活動や勉強にも前向きに取り組む、自分の思い描く人生をつかんでください。

(文責 青学年)